

## 市町村長・管理職特別セミナー (4月27日～28日)

4月27日、28日の2日間の日程で、令和5年度第1回「市町村長特別セミナー」及び「管理職特別セミナー」を一般財団法人地域創造との共催により開催し、全国各地から計74人の市町村長、管理職等の皆様にご参加いただきました。



松尾 一郎氏

初日は、まず、「大規模災害から命を守るコミュニティ防災社会をどう作るのか？～市民が考え市民が行動する自律型のコミュニティをタイムライン防災で作る～」と題して、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター客員教授の松尾一郎氏から、市民が自ら考えて行動し、国や地方自治体と協働する「コミュニティレジリエンス社会」を目指す防災体制について、関東大震災から100年の節目の年にご講演いただきました。参加者からは、「災害は確実に来る。そのためには何が必要か、どのように進めていくのか、市民と一緒に考えていきたい」「全国の自治体共通の重要テーマについて、わかりやすく心にしみる講演だった」などの感想をいただきました。

続いて、「文化からはじまる地域の未来」と題して、文化施設開発やアート計画のコンサルタントとして活躍されている、株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事・芸術文化プロジェクト室長の吉本光宏氏から、地域の未来に向け、アートを起点とした地域活力の創出についてご講演いただきました。参加者からは、「心の豊かさや行政サービスの満足度向上のために文化芸術が必要不可欠だと感じた」「小中学校で高い文化に触れる機会づくりを進めたい」などの感想をいただきました。



吉本 光宏氏



ミニコンサート

初日の最後に、ヴァイオリン奏者の石上真由子氏、ピアノ奏者の城綾乃氏による「ミニコンサート」を開催しました。参加者からは、「ここまで近い距離での演奏会は初めてでリラックスした楽しい時間を過ごすことができました」「研修に来て心が癒されるとは思っていなかった。わが村の子どもたちにもこういう場面を増やしたい」などの感想をいただきました。

2日目は、まず、「令和時代に求められる自治体職員像～地域と組織の課題の変化～」と題して、当研修所学長の岡本全勝から、自治体を取り巻く環境が大きく変貌する中、これからの令和時代に求められる自治体職員像について、自身の官僚時代の経験談を交え講演いたしました。参加者からは、「30年間に日本がどのように変わったのか、実体験を踏まえた講話で非常に有意義だった」「時代の変化により、自治体に求められる業務も変化し、職員の人事異動の大切さなど、貴重な講演となった」などの感想をいただきました。



岡本 全勝学長



中村 玲子氏

最後に、「改正個人情報保護法とマイナンバー法への地方公共団体における対応について」と題して、個人情報保護委員会委員の中村玲子氏から、令和3年度改正個人情報保護法の全体像や安全管理措置、マイナンバー制度における特定個人情報保護評価や独自利用事務の情報連携などについてご講演いただきました。参加者からは、「法の成立と経緯など大変良く理解できた」「マイナンバー情報を活用するにあたっての注意点について理解が進んだ」などの感想をいただきました。